Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

085

実習事前保育ワークショップ指導の効果（2）
MTによる保育者及び幼児理解の成果と問題点

小泉裕子
鎌倉女子大学

Ⅰ.本研究の経過と目的

98年度のワークショップでは学生の学習成果として、1)実践事後の達成感(60.7%)が得られたこと、2)保育実習や保育職への興味意欲が高まったこと(27%)、3)教材研究・指導計画・保育方法を具体的にイメージできた(87.4%)こと、4)今後の学習課題が設定できた(61.9%)ことなどが確認できた。

しかしながら、以下のような問題点が発見された。フロアの学生を幼児として意識化できなかったことにより、実践者の一方的な一斉指導形態に陥っていたことである。保育者が指導案を立てる際にも、また保育を行う場合にも実際の幼児を想定し進められていくという基礎的配慮が全く欠如していたのである。保育者の実践は、長期的な保育のねらいや目標を設定すると同時に、目の前にいる幼児一人一人を理解し、その個々の実態に即した指導が展開されなければならない。こういった保育本来の姿を大学の授業の中で事前学習するためには、新たな学習方法で学ぶことが求められる。このことを改善するため、本年度は実践の中に保育者役と幼児役を設定するマイクロティーチング法を活用した。マイクロティーチング（以下 MT）では、保育者役と幼児役を意図的に設定し、それぞれが本来の保育形態に近い状況を演じることにより、保育者の指導援助の実態を知り、また幼児の様々な実態を知ることが期待される。実習を経験していない大学1年生を対象とする授業では、MT で保育者や幼児を演じるのはいささか困難を極めると予想できるが、一方ではそれら実態の情報を如何にして収集するかという学習課題にもつながると思われる。したがって本年度は、事前ワークショップとしてＭＴを活用した新たな学習法を提案し、そこでの学生達の様々な成果と問題点を整理していくものとする、

Ⅱ．本研究の方法

１．MTとは

Microteaching の目的は以下の3つに整理される、(英語教授法辞典．三省堂．1986)

(1)実際の授業（保育）に先立って予行練習的に行うもの、(2)教授法を教える目的で行われ、実際に教えるための具体的個々のスキルを教えるのに効果がある、(3)カリキュラム開発や修正のために行うもの、である、また、生徒(幼児)役のロールプレイングの適切さがＭＴの成否の鍵を握っていると考えられる。

昨年度の反省より、本年度は幼児役の設定に特に重点を置いた。MT では幼児役のロール・プレイングの適切さが学習の鍵を握っているという点に着目し、本研究の実践方法とした。

２．ＭＴの手順

(1)グループを結成し、役割を分担。保育者役(グループ内で1、2名)、幼児役(グループ内の残りのメンバーとフロア観察者から数名)、観察者(実践の記録を記述する学生)をそれぞれ設定する。

(2)実践指導案を計画する。

(3)事前アンケートにより、実践事前の心理(心的)と準備(事象的)を調査し学生の実践前の実態を記録する。

(4)実践は 20 分前後とし、終了後感想を口頭発表する、

(5)発表終了後、指導者(筆者＝主任Ａ)から実践上のポイントや保育者としての配慮事項など、助言を受ける。

(6)事後アンケートにより、事後心理(心的)と行動（事象的）を調査し、学生の学習成果を記述する。

(7)実習までの自己課題を学生それぞれが設定する。

Ⅲ．本研究の結果

１．ＭＴの効果を分析する方法について

事前の学生の実態は、以下の手順で整理した。小泉(1998)では、ワークショップ後の自由記述式アンケートを4つの次元で分析し整理したが、その際、事前および事後のアンケートを同時に調査したため、ワークショップ事態が及ぼす学習効果を評価するには不備があった。したがって、本年度は昨年同様のカテゴリー(図１)を設定、４つの次元であらかじめ質問項目を作成し、実践直前と直後のアンケート結果を比較検討することにした。２時点データの変化を検討することは、ＭＴの学習効果を正確に測定できるものと思われる。

データの事前調査は（大学１年生）155 人を、また事後調査は 150 人を対象に実施したものである。

２．カテゴリーの作成と結果の整理

１文を１つの素データとし、文章の意味・内容を代表するカテゴリーを下位カテゴリーとした、下位カテゴリーから以下のような上位カテゴリーが抽出できた。

（１）心理（MIND）カテゴリーの作成

事前の心理に関する記述内容は、1)ＭＴで学習することへの期待や不安、2)ＭＴで、保育者役や幼児役を演じ

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

ることへの関心や不安、3)MT 参加への率直な意見、という3つの上位カテゴリーに分類でき、またこの上位カテゴリーのそれぞれは、肯定的・積極的意見(＋評価)と、否定的・消極的意見(－評価)に分類できた。同様に事後心理に関する記述内容は、1)MT で学習したことへの満足や効果の実感、2)保育者役や幼児役を演じた結果の満足・楽しさ、3)今後の実習や保育職に関する率直な意見、という3つの上位カテゴリーに分類できた。

（2）事象（FACT）カテゴリーの作成

事前の事象（準備）は、MT 実践の前に行った具体的な行動や学習、自覚事項が書かれていた。したがってその記述内容を 1)いかにして実践上の情報を収集したか、2)実際に行った準備行為、3)保育者役または幼児役を演じる際の留意した事項、という3つの上位カテゴリーに分類できた。、この3つの上位カテゴリーは、保育者役・幼児役ともに、肯定的・積極的意見(＋評価)しか抽出されなかた。事後の事象(学習)は、MT 実践後に具体的に自覚した学習課題について記述されていた。その内容は、1)保育者観・幼児観の広がりや成長、2)今後の具体的な学習課題、3)今後の実習等における実践上の留意事項、という3つに分類できた。また、この3つの上位カテゴリーも、保育者役・幼児役ともに肯定的・積極的意見(＋評価)のカテゴリーのみ抽出された。事象カテゴリーおける(－評価)の記述はカテゴリー「その他、無回答」の中に含まれている。しかしマイナス評価の記述は抽出されなかった、

3．MT 実践効果の考察

（1）保者役と MT 効果〈資料1参照〉

1)MT 実践前の対象学生は、保育者役を演じることへの高い不安(92 %)を感じ、また MT の参加に積極的ではなかった(13 %)が、実践後は役割への不満(71 %)は依然高いながらも事前に比べて不安は軽減され、今後の実習や実践に積極性を示した(34 %)といえる。

2)また、保育者役を演じる際の情報収集は、(48 %)の学生がより具体的な方法でなされ、積極的に MT に参加しようとしたことが伺える。さらに、事後の結果からは、今後の具体的な学習課題を明確にした学生が(45 %)、実践上の留意点を具体的に自覚した記述は(160 %)あり、1人の学生が約2つの学びを自覚したと考えられる、

（2）幼児役と MT 効果〈資料1参照〉

1)MT 実践以前の対象学生の特徴は、幼児役を演じることは保育者役と比べて不安は少ない(56 %)、記述例の中にも「保育者役より簡単である」と感じているケースが目に付いた、また、幼児役の方が「楽しい」として、その関心度は保育者役の(15 %)と比べて(48 %)と高い、しかし、実践後は保育者役と対照的で、不安や不満が軽減されているとは言えない結果になった。

2)また、幼児役を演じる学生の事前の情報収集は(72 %)でより具体的な方法で調査し、保育者役以上に積極的に関わっている様子がうかがえる。

実践後は、幼児観の成長や、今後の具体的学習課題がそれぞれ(47 %)の学生の中で自覚され、MT によって、幼児理解の入口を発見できたのではないだろうか。

以上の結果に基づいて、MT 学習の効果を総括し学生たちの学びを整理すると、MT 学習によって実習前の学生たちの保育者としての不安を軽減し、さらに実践上の自己課題や留意点を明確にする効果があったと言えるだろう。また、予想以上に多様な子供への対応に戸惑う経験をもたらし、子供の実態の無限さを自覚させる効果があったと言えよう。

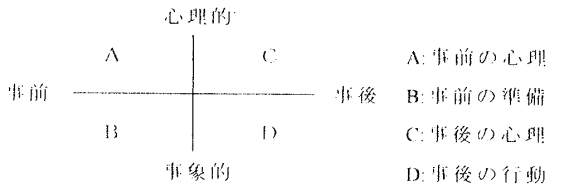
Ⅳ今後の研究課題

今回のワークショップでは、幼児役を設定することで、目の前にいる幼児(役)との相互作用を含む実践指導が展開される学習をもたらした。また幼児役の設定は、幼児理解のみならず、保育者役の学習に有効であったことだ。目の前に子供(役)がいる状況だからこそ、実態に即した対応の重要性に気づいたといえよう。今後は、学生のアンケートで指摘しているように、ワークショップの中でも実際の保育者・幼児を事前に観察する場をできるだけ沢山設定しなければならない。また、様々な子供と保育者の対応場面をケース研究することや、保育技術のワークショップを充実する事の重要性が確認された。

（資料1）

1(保)事前事後の心理変化	A%	C%	2(幼)事前事後の心理変化	A%	C%
+1 MT への期待→満足	32	14	+1 MT への期待→満足	20	33
+2 保育者役への期待→満足	15	37	+2 幼児役への期待→満足	48	25
+3 MT積極性→実習積極性	13	34	+3 MT積極性→実習積極性	24	23
-1 MT への不安→不満	1	0	-1 MT への不安→不満	1	2
-2 保育者役への期待→満足	92	71	-2 保育者役への不安→不満	56	70
-3 MT消極性→実習消極性	13	5	-3 MT消極性→実習消極性	17	0
3(保)事前事後の事象変化	B%	D%	4(幼)事前事後の事象変化	B%	D%
+1 情報収集→保育者観発達	48	15	+1 情報収集→幼児観発達	72	47
+2 準備行為→自己学習課題	12	45	+2 準備行為→自己学習課題	11	47
+3 MTの留意点→実践留意点	61	160	+3 MTの留意点→実践留意点	51	26

（図1）



NII-Electronic Library Service